

(ザグレブ経済経営大学入学式での特別講演)
(英語で行った講演の要旨)

グローバル化下での若者への期待と
これからの日本・クロアチア経済関係
～皆さんにこれから学んで頂きたいこと～

2015年9月7日
駐クロアチア日本国特命全権大使
井出敬二

尊敬するニャブロ学長、皆様、

本日はザグレブ経済経営大学（Zagreb School of Economics and Management）の入学式にお招き頂きありがとうございます。またこの学期から明治学院大学からの19名が4ヶ月間貴大学に留学していると承知しています。ザグレブ経済経営大学と明治学院大学の両大学の交流が大規模に始まった事は、日本・クロアチア間の教育交流の歴史で画期的なことです。心からお喜び申し上げるとともに、ニャブロ学長はじめ関係者のご努力に厚く御礼申し上げます。

本日私が貴大学の入学式にお招き頂いたのは、日本との大規模な留学生交流が開始されたことが一つのきっかけだと思いますが、また日本とクロアチアとの間の経済交流も抜本的に強化されようとしている事情もあると思います。本年6月のミラノビッチ首相の訪日は史上初めてのクロアチア首相の訪日であり、大きな成果がありました。この点は後ほど詳しくお話しします。

本日は、大学側からのご示唆に従って、大学生の皆さんに何を学んで頂きたいかということをお話ししたいと思います。

私は今から約40年前の1976年4月に日本の大学の経済学部に入りました。当時の世界はまだ冷戦が続いていました。日本の隣りの中国ではその年の1月と9月に周恩来首相と毛沢東主席がそれぞれ死去し、やがて鄧小平による改革開放政策が始められるところでした。私は大学時代には社会主義に関心があり、ソ連について学んだり、社会主義思想について学んだりしました。ユーゴスラビアの企業経営についても当時強い関心を持って本を読んだりしておりました。

大学時代では何を学ぶべきでしょうか？大学時代は楽しくもあり、苦しくもある時です。

自分がこれから何をして生きていくのかを決めないといけないからです。自分は一体誰なのか、というのをアイデンティティーと言いますが、これを見つけることは大変です。

私も子供達には、第1にしっかりした仕事を通じて世界に貢献していくことが必要だということ、第2に自分が好きなことを見つけて、できればその事に関係のある仕事に就けるようにしたら良い、第3に時間があれば本を読んだり人に会ったり旅をしたりして見聞を広げなさい、といつも述べています。

更に今日の世界はグローバルイゼーションであり、競争が激しくなっています。皆さんは大きな競争に晒されています。

これからの皆さんが大学でしないといけないことは次のことだと思います。

最も重要なことは、社会に出てから、何を目的にして生きていくのかを考えて、自分なりの結論を出すことだと思います。私の結論は、自分の能力・可能性を最大限に生かしながら、他人の役に立ち、社会に貢献することだ、ということでした。ビジネスをする場合、利益を上げることは勿論重要ですが、お金儲けだけの人生はむなししいと思います。

このことを確認した上で、社会に出るための準備をしないとイケません。

第1に異なる他人を理解し、自分の意見を説明するだけのコミュニケーション能力を磨く必要があります。これはなかなか大変なことです。世界には様々異なる見方があり、そしてそれはそれぞれに一理があるのです。夫婦の間ですら相互理解は難しいですが、不可能ではありません（笑）。異なる民族間、国家間での相互理解も難しいですが、不可能ではありません。外国語の勉強も必要です。英語はもとより、それ以外の言葉も学んで下さい。貴大学ではクロアチア語、英語以外にも、ドイツ語、フランス語、そして日本語が話されています。私も今クロアチア語を学んでいます。

第2に知的好奇心を持って世界各地で起きていることに眼を向けて下さい。日本人は日本周辺だけではなく、またクロアチア人は欧州周辺だけではなく、それぞれ地球の裏側で何が起きているかを見て頂きたいと思います。そのためには実際に訪問もして見て下さい。日本を旅行するには決して多くのお金を必要とするものではありません。ホテル代はクロアチアに比べて日本の方が高額ということはありません。安い航空券もあります。世界にはまだまだ沢山の分からないこと、知られていないことがあります。それを皆さん自身で探して感じて欲しいです。Wikipediaは便利ですが、それだけでは世界は分かりません。

日本とクロアチアは、遠い国ですが、様々な経済関係が進展しています。

クロアチアは毎年約2000トンのマグロを日本に輸出しています。本日の新聞を読んではいたら、ゴトビナ将軍のマグロ・ビジネスも順調にしているという記事が出ており、日本とのビジネスの発展という観点から喜ばしい限りです（拍手）。

日本からは毎年4～5万人の観光客がクロアチアを訪問しています。

クロアチアの高級船員6～700名が日本の船会社で働いています。

ザグレブには矢崎総業の製品開発センターがあり、約90名もの優秀なクロアチア人エ

エンジニアが働いています。先日、モルナル科学・教育・スポーツ大臣と私はこの矢崎総業の製品開発センターを訪問しましたが、その際、矢崎総業が現在世界44カ国に462の拠点をもち、25万人強の社員を有するとの説明がありました。特に25万人もの従業員がいるという説明を受けて、モルナル大臣は大変強い感銘を受けたようでした。矢崎総業だけで、クロアチアの労働人口の2割近くに相当する人たちを世界で雇用している訳です。

日本企業はクロアチアの周辺国であるハンガリー、チェコ、スロバキア、ルーマニアなどに既に積極的に進出しています。昨年前半のルーマニアのデータですが、輸出企業トップ100社の中に日本企業が12社含まれていました。これら日本企業による輸出は、同期のルーマニアの全輸出の12%を占めていました。

残念ながらクロアチアへの日本企業の進出はまだ大変少ないのが現状です。残念ながらクロアチアでは1990年代前半に戦争もありました。その間に周辺諸国は効果的に投資誘致を開始しました。今後クロアチアのビジネス環境を改善して追いつくことが必要です。企業誘致の点でも競争が激しく行われています。

日本企業はクロアチアでの大きなプロジェクトに参加する予定です。丸紅はプロミンC火力発電所の近代化プロジェクトに参加しようとしています。皆さんも新聞で読んだことがあると思います。総プロジェクト経費は約13億ユーロであり、これはクロアチアの年間GDPの約3%にもなります。このプロジェクトにより、今後数年間にクロアチアのGDPを押し上げることが期待されます。石炭火力発電ということで懸念する方もいるかもしれませんが、最新の技術を持ってくるので、既存の火力発電所よりも環境に優しいものです。このプロジェクトが成功すれば、日本・クロアチア間の経済交流で画期的な事業となるでしょう。

6月に訪日したミラノビッチ首相は安倍総理と多方面で協力することに合意されました。このプロミンC火力発電所建設計画以外にも、リエカ港コンテナターミナル建設計画、ピスコルニツァ地域廃棄物管理センター建設計画、クルクLNGターミナル建設プロジェクトがクロアチア政府により指定された戦略的投資プロジェクトですが、日本企業は全てのプロジェクトに強い関心を持っています。日本企業がクロアチアに来ることにより、学生の皆さんにとっても、日本・クロアチア経済関係で就職する機会も増えていくことと思います。

皆さんの大学生活が有意義なものとなることをお祈りしています。

そして皆様から日本とクロアチアとの関係発展にご支援をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

(了)